

今、浦学にできること」 12/9号

浦学の方向性 ● 常に前向き、一人ひとりが何かを感じ、考え、すぐに行動する
未曾有の大震災の教訓を教育の中に活かすこと

浦和学院高校東日本大震災対策本部

頑張る仲間をみんなて応援

第11回被災地支援の報告

春の高校野球選抜大会、全校応援自粛のエネルギーと費用を大震災に傾けよう。
校訓に掲げた「克己・仁愛・共生」を、浦学生が実践しよう!!



▲石巻市立北上中学校では、生徒さんがお米や野菜を作っています。「北上川の恵」、絶品です。

大震災発生から9ヶ月を迎えようとしている12月9日、本校では第11回目となる被災地支援を実施した。今回は、被災地入り9回目となる事務部長兼企画部長の車谷（対策本部）と初めての訪問となる業務推進センター主幹の石出の2名が担当した。訪問先は石巻市立北上中学校（二回目）、鹿妻保育所（八回目）、石巻災害復興支援協議会など。また、同日夜から浦和を訪れる鹿妻・子鹿クラブスポ少野球チームの現地迎えが主な目的である。

石巻市立北上中学校

今回、二回目の訪問となる石巻市立北上中学校には、生徒一人ひとりから要望を聞き入れた「図書」、学校共有物として高校受験に役立つための「参考書」などを送った。北上中学校では「大震災で家を失い仮設住宅に入居したが、台風15号の影響で床上浸水のダブル被害を受け、教科書も自己負担している生徒がいる」とお聞きした。北上地区は石巻市街地まで20km以上あり物を購入するお店もない。家に閉じこもりがちな生徒さんたちに「ほんのひとときのやすらぎ」として推薦図書や思い入れのある本をプレゼントした。前回の鹿妻保育所同様に廃版になった本の希望もあり、入手には困難を極めたが、何とか探し当て1960年代の新品同様の希望品の本も送ることもでき、きっと喜んでもらえたに違いない。

北上中学校畠山校長先生は、我々を大歓迎して下さい、貴重なお昼休みに全校生徒さんをホールに集めていただき、生徒会長からお礼の言葉をいただいた。本校は車谷（対策本部）より、「埼玉から2400名の思いを運びました。少し早い浦学生からのクリスマスプレゼントです。これからも少しずつですができることを…」と結び、「浦学からみんなにすてきなクリスマスを」のクリスマスカードを添えて全校生徒95名の皆さんに手渡した。

畠山校長からは、「浦学野球部の皆さんが北上にボランティアに来てくれます。」と、紹介すると場内は一瞬どよめいた。高校生が単独で北上まで足を伸ばしてくれることは少ないという。

今も多くの白鷺が飛来する自然の宝庫だけに、少しでも多くの明るい材料を北上の地に持ち込みたい。

北上川の河口近くの高台にある北上中学校
対面には、大川小学校がある





希望を聞いて本をプレゼント!!!



石巻市立鹿妻保育所



鹿妻保育所周辺は、大震災後ライフラインが完全にストップしたため、保育所にあったろうソクが役に立った。すべて使い果たしてしまったため、クリスマスを迎えるにあたり少しばかりろうソクを差し入れした。

浦和学院高校が訪問した当日、平成 23 年 12 月 9 日
金曜日の北上中学校公式ホームページ「校長室の窓」から

千客万来はいいことだが…

石巻市立北上中学校校長 畠山先生



午前中、多数の来客があり、対応にてんてこ舞いでした。生徒に一人一冊ずつ本をプレゼントして下さった埼玉県の浦和学院高校の先生方、玄関脇の植込みに新しい花を移植して学校の環境整備をして下さったNPO団体・プロジェクト結いの方々、そして学校に取材にいらした婦人雑誌の記者さん、さらにボランティア活動の打合せに来校した北上総合支所の職員の方です。

嬉しい悲鳴を上げたわけですが、なかなか自分の仕事が進まないのは仕方ないことだとあきらめています。昔から『客の多い家は栄える』といいます。誰も来なくなるよりはいいのかもしれませんが、折角、遠い道のりを、時間とお金と自由を犠牲にして、被災地の支援のためにわざわざ来て下さる方々のお気持ちを無にしないためにも、できる限りのサービスをするのも、私の大事な仕事だと割り切ることにしています。遠方からお出でになる支援者と現地の被災者とを繋ぐコーディネーターとして、微力ながら、この冬休みは頑張ろうと思います。

今朝、読んだ新聞にいい文章が載っていたので、紹介します。「仮設住宅の被災者だけではない。修理をしながら在宅で奮闘している人の救済も大切。ボランティアはもう不要だ、と被災者が思えた時こそが真の復興だ」息の長い支援に感謝します。

- ◎『長〜く支援して、少〜し支援して』です。
- ◎本末転倒にならないように注意してください。
- ◎被災者と被災地を忘れないことが、最大の支援です。
- ◎『できることを、できる範囲で』で結構です。

伝えるコーナー新設

石巻市立北上中学校の畠山校長先生は、理科を専門とされる先生です。しかし、「国語の先生ですか?」と聞いてしまうほど、先生のブログを拝見させていただくと被災地の様子や故郷の様子がひしひしと伝わってきます。生徒のことを第一に考え、支援者にも配慮しながら正しいことを伝えて下さる数少ない情報の一つです。

浦学も支援活動を通して知りえた情報を少しでも多くの方に伝えていきます。

伝える

石巻市立吉浜小学校。11/10号でもお伝えした学校である。大震災当日全校生徒43名が屋上で身を寄せ、教員が所持していたライターで焚火をしてあの日を過ごしたという。津波は3階を超え屋上まで50cmまで迫った。生々しい現状ではあるが、ダクトを外し、火を逃がさず大勢の子供たちを安全に温めた工夫が感じられた。様々な思いが伝わってくる。



石巻市立大川小学校。北上中学校から眺められる場所にある。小学校前の北上大橋は、大橋の半分が流され、一ヶ月ほど前に開通したばかりである。10km以上離れた花屋さんで供花を購入したところ「大川小学校へ行くのですか」と聞かれた。それほど近くにはお店らしいものはない。また、二回目ではあるが、ご遺族のお婆ちゃんらしい方が長靴を履いて慰霊碑の一点を見つめている。毎日、お孫さんのことを思っているのだろう。

東松島市の野蒜駅近く。石巻と隣接する地域ではあるが、まったく手がつけられていない。震災後9ヶ月、都会では、忘れ去られたようにクリスマスイルミネーションが煌々と輝く一方、被災地のボランティアが訪れない地域の現状は3.11のままだ。周辺で暮らしている方々のためにも、少しでも早く第一歩を踏み出して欲しい。



「笑顔・希望」—明日へ